

令和4年度 学校教育自己診断の結果と分析

【学習指導等】

・「授業はわかりやすい」

(生徒)の肯定率が77%から72%と減少した。一人一台端末の導入後、全校上げて授業力向上の職員研修や授業研究週間などに取り組んだが、生徒のニーズ・層の変化にも注視したい。

・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(生徒)では81%から85%と着実に伸びており、授業内でアウトプットする機会を充実させていることがわかる。特に「総合的な探究の時間」では3年間を見通した計画を立てて学校を上げて取り組みを進めている。

・「学習の評価は、テストの点数だけでなく生徒の努力や取組みの変化等を含めてされている」(生徒)は昨年度と同程度の84%であった。1年生だけを比較すると微減なので、新しい評価の影響かどうかは検討が必要である。

【進路指導等】

・「ホームルームなどで進路についての情報を提供されている」(生徒)において肯定率が92%から96%とさらに伸びている。本校では1年次から年間行事予定に入れて計画的に進路指導を行っている。それに加えて各大学等の最新の入試情報などは、随時学習支援クラウドサービスで生徒へ直接配信している。

・「学校は、長期休暇中の講習や進学学習等を実施している」(生徒)の肯定率は昨年と同じ95%だった。生徒のニーズに応じた講習ができていると判断できる。

【生徒指導等】

・教育相談において「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」(生徒)で74%と昨年と同程度であった。教職員の、生徒に寄り添う姿勢は徹底できているが、今後も「いじめアンケート」「学校生活に関するアンケート」などを定期的実施して生徒のSOSを見逃さずにキャッチできる態勢を維持したい。

・「学校の生活指導の方針について納得できる」(生徒)は、昨年と同程度の68%だった。集団が気持ちよく生活できるための最低限のルールであることを説明して、引き続き自主的な活動を引き出したい。

・部活動関係の指標において、「部活動に積極的に取り組んでいる」は77%、「部活動を通じて成長している」が86%とこちらも昨年と同程度だった。本校は部活動加入率が8割を越え、運動部であれば近畿大会へ進出できた部が複数あり、文化部でも発表会など地域での貢献での場が多くあった。さらに高みを目指せるよう環境整備をしてバックアップしていきたい。

・「人権の大切さを学ぶ機会がある」(生徒)でも78%と同程度だった。

LHRでの学習や毎月の「人権だより」発行は例年通りに行っている。引き続きあらゆる教

育活動ですべての生徒の人権が守られた状態を維持していきたい。

・「文化祭や体育大会は活発で楽しい」では70%から83%と上がった。コロナの制約があったものの、体育大会、文化祭が予定通りに実施できたことが大きく影響している。

【学校運営等】

・「学校へ行くのが楽しい」（生徒）では81%から83%に微増した。様々な場面での制約が残る学校生活ではあるが、体育大会や文化祭などの行事が概ね例年通りできたことから、例年並みの数値となった。

・「学校は、学習と行事・部活動の両立を図るように指導している」（生徒）は81%、「学校は、教室や特別教室など授業を受けやすいよう整備されている」（生徒）も86%と昨年度と同程度となった。引き続き、学習環境を整え、部活動との両立を図る指導を続けたい。

・「学校での授業や部活動を通じ、近隣の学校や地域との交流機会がある」（生徒）は41%から48%と上昇した。コロナが落ち着いたこともあり、昨年中止になった取り組みが復活したことが大きい。本校周辺には大学も含めて多くの教育施設があるので、生徒のニーズを見ながら新たな交流機会を模索していきたい。